

第3回 デザインコンペ デザイン構成部門 講評コメント

テーマ：「過去」、「未来」という言葉から連想されるイメージを構成してください。

【講評】デザイン構成部門

今回、デザイン構成部門の課題テーマは、「過去」「未来」という言葉から連想されるイメージを構成するというものでした。ご応募いただきました皆さま、ありがとうございました。そして、受賞された皆さま、おめでとうございます。

第3回目となる今回のテーマ「過去」「未来」という言葉はかたがちがないため、ビジュアルとして表現するのは難しかったのではないのでしょうか。「過去」「未来」という言葉は人により様々な捉え方があるかと思います。「過去」という言葉からは、例えば「昔、歴史、古い、過ぎ去った、セピア、後ろ、ノスタルジー、白黒、色褪せる、レトロ、etc.」のようなイメージを。反対に「未来」という言葉からは、例えば「未知、進化、新しい、これから、明るい、鮮やか、前、夢、テクノロジー、etc.」のようなイメージを思い浮かべる人もいるのでしょうか。その幾通りもある捉え方の中で、デザイン課題におけるイメージ構成では、誰が見ても設定されたテーマを自然と連想するような表現を行う必要があります。今回の応募された作品の傾向を見ると、「過去」「未来」という言葉を自分なりの解釈に変換して、その変換された言葉を表現されている方が何人かいらっしゃいました。そのため、課題条件は守られているが、「過去」「未来」のイメージの表現が不明瞭になってしまっている作品が見られました。イメージ構成課題に限らず、デザインを行う際には与えられたテーマをできる限りそのままの状態ビジュアライズする必要があります。そのためには、テーマである「過去」「未来」という言葉の意味を掘り下げながら、どのような形や色を使用するのが望ましいかを検討することが大切です。そして、自らの思い描くイメージを、より多くの人に共有するために「客観的な視点」を持つことが必要不可欠です。制作の過程の中で「自分のイメージが的確に表現できているか」、「誰が見ても同じイメージを連想するか」を繰り返し検証するよう心がけましょう。作品の制作に取り掛かると、どうしても目の前の作品に集中するあまり、客観的な視点を失いがちになります。そのような時は、少し作品から離れてみたり、他者に意見を求めてみるのも良いかもしれません。

入賞作品について、今回金賞は該当者無しとなりました。銀賞の2作品について、一つ目の作品は色あせた淀みのあるような「過去」と、爽やかな流れを感じる「未来」の対比が行われています。色の三属性を幅広く活用できおり配色にメリハリを感じます。構成について、特に「過去」の構成要素の配置のまとまりが弱く煩雑に感じるため、構成を検討する段階で制作意図や見せ場を意識しながらまとめるようにしてみましょう。二つ目の作品は左

右で似た構成の対比が行われており、相反する言葉を表現する際には有効な手段だと思えます。使用している配色について、特に「未来」の配色のトーンに偏りがあるため、それぞれのイメージを表す配色をよく調べながら、色相・彩度・明度をしっかりとばらつかせ、メリハリを出すようにしてみましょう。

デザイン構成課題は、あらゆるデザインを行っていくうえでの基礎力を磨くことができる課題です。基礎が磨かれると、デザインの可能性が広がります。これからデザインを頑張ろうという人も、自分の力をより磨きたい、高めたいという人も、常に基礎と向き合いながらデザインを楽しんでいただけたらと思います。